

しあわせ家族計画 字幕

Chapter4: Tetsuo comes back

よし たろう
由太郎 : ああ、ずるいよ

よう こ
陽子 : ざまあみろ¹

てつ お
哲男 : ああ、いい風呂^{ふ ろ}だった
おっ、面白^{おもしろ}そうだな

つね こ
恒子 : どっち勝^かってんの

よう こ
陽子 : あたしが勝^かってんの

つね こ
恒子 : ええ、すごいじゃん

ゆう こ
優子 : どうぞ

てつ お
哲男 : しかし 驚^{おどろ}いたなあ
優子^{ゆう こ}さんにあんなに立派^{りっぱ}なお子達^{こたち}があるとはなあ

ゆう こ
優子 : それだけおばさんになっちゃったって事^{こと}

てつ お
哲男 : いや、昔^{むかし}とちっとも変^かわってません²

ゆう こ
優子 : いやだ、もう、うまいんだから³

よしぞう
義造 : いい歳^{とし}して何^{なに}をはしゃいでやがんだよ⁴

ゆう こ
優子 : うるさいわね
それよりどうしてたの、いままで

てつ お
哲男 : ここを出^でてから、色々^{いろいろ}な店^{みせ}を転々^{てんてん}としまして⁵、所帯^{しょたい}も持^もってみたんですが⁶、
結局^{けっきょく} うまくいきませんでした
子供^{こども}がでしなかつたのを 幸^{さいわ}いに⁷、女房^{にようぼう}とも別^{わか}れて、一^{いち}からやり直^{なお}そう⁸と
思^{おも}いました
そうなるとやっぱりこしかな
そう思^{おも}い、決^きめて、戻^{もど}ってきたんです

よしぞう
義造 : そうか
哲^{てつ}、実^{じつ}は、おめえ^{もど}⁹が戻^{もど}ってきてくれねえかって、おれはどのぐら思^{おも}って
たか、分^わからないくらいなんだよ
ま、この際^{さい}だから言^いうが¹⁰、俺^{おれ}は、哲^{てつ}に店^{みせ}を継^ついでもらいてえと¹¹、ずっと思^{おも}
ってたんだよ

つね こ
恒子 : 調^{ちよう}子のいい事^し、言^いっちゃって¹²

よしぞう
義造 : 何^{なに}っ

つね こ
恒子 : 別^{べつ}に

よしぞう
義造 : 俺^{おれ}な、おめえと優子^{ゆう こ}を一^{いっ}緒^{しょ}にするつもりだったんだよ¹³

そう優子に言ったら、恋人がいるってえじゃねえか¹⁴
サラリーマンだよ

優子 : あなた

富士夫 : ん

優子 : 悪いけど、哲男さんにビール持ってきてくれる

富士夫 : あっ
はい

哲男 : 実は、僕がこの店を出たのもそのせいでした
優子さんが別の人と結婚すると聞いて、ショックを受けたんです

義造 : 知らなかったよお

てっきり、俺の味が気に入らねえってんで¹⁵

哲男 : バカ言っちゃいけねえ¹⁶

おやじさんの品は、日本一です

義造 : 哲

由太郎 : あああ、落ちちゃった

優子 : おはよう

富士夫 : どうしたんだよ

優子 : 買い物と洗濯、お願いね

あと、布団たたんどいて¹⁷

哲男さん、今、コーヒー入れるから

店員 : 2,683円になります

富士夫 : 2,000円とね、すみませんね

広瀬 : うるせえな¹⁸

おれになんか文句あるのかよ¹⁹
バカヤロー

富士夫 : ちょ、ちょ、ちょっと、ちょっと
だいじょうぶか

広瀬 : なんでお前がこんな所にいるんだよ

富士夫 : ひ、ひ、引っ越したんだよ
そ、そっちこそ

ひろ せ
広瀬 : こんなバカが^{ちか}近くに^こ越すとはよ²⁰
ったくもう²¹

よしぞう
義造 : おおおい、ばかうけだぞ²²
^{てつ つく}哲の作ったタピオカくずもち²³

てつ お
哲男 : そうっすか

つね こ
恒子 : はい、^{ろっ こ}6個、^{まい ど}毎度ありがとうございます

よしぞう
義造 : ^{まい ど}毎度

つね こ
恒子 : こちらさん²⁴は、^{みつ}3つでしたっけ

ゆう こ
優子 : あたしがやる

^{かあ}お母さん、できました

つね こ
恒子 : あっ、こっち、こっち、こっち

^{さん こ}三個で、^{えん}600円でございます

^{いつ}5つ

はいはいはい、ちょっと^まお待ちください

ふ じ お
富士夫 : エリー、ほとんど^{き たい}期待されてないみたいだけど、^{しんが いしや}新会社で^{が ん ば}頑張ってみるか
うん

つうこうにん
通行人1 : もう、おそいよ

つうこうにん
通行人2 : いてえなあ²⁵

ともだち
友達1 : なあにやってんの

ともだち
友達2 : バカじゃない

ともだち
友達1 : おっかしい

ともだち
友達3 : あの子、^こ根^{こんじょう}性あるね²⁶

ともだち
友達2 : ね、もう一^{いち}時間半も^{じ かんはん}待ってんだよ^ま

ともだち
友達1 : ね、そういうのってさ、マヌケ²⁷って^い言うんじゃないの
おい

よう こ
陽子 : ちょっと、^{こと}どういう事
ずっと^ま待ってたのよ

ひどいよ
ともだち 友達³ : 何^{なに}すんのよ
ようこ 陽子 : なんで昨日^{きのう}来^こなかったのよ
ともだち 友達³ : しらないわよ
しょうた 章太 : やめろよ
やめろって

『重役^{じゅうやく}の心得^{こころえ} 会社^{かいしゃ}をのばす 33 の鉄則^{てつそく}』²⁸
ふじお 富士夫 : 主張^{しゅちやう}すべき時^{とき}は断固^{だんこ}、主張^{しゅちやう}する²⁹
主張^{しゅちやう}すべき時^{とき}は断固^{だんこ}、主張^{しゅちやう}する
じょうねつ 情熱^{じょうねつ}と使命感^{しめいかん}がそうさせる³⁰
情熱^{じょうねつ}と、おっ
そういえば、しばらくやってなかったなあ
てつお 哲男 : おう、悪い^{わる}
待^またせたな
行^いこうか
てつお 哲男 : ちょっとしぼってやります³¹ から
よし、行^いこう
よし 由太郎 : ね、今日^{きょう}フオークボール³² 教^{おし}えてよ
てつお 哲男 : よっしゃ³³
よし 由太郎 : やった

ふじお 富士夫 : はい、川尻^{かわじり}です、浦志満^{うらしま}です
ともだち 友達 : 警告^{けいこく}です
たく 大 : お宅^{たく}の、陽子^{ようこ}さんと、広瀬^{ひろせ} 章太^{しょうた}、ラブラブなんだよね³⁴
がっこう 学校^{がっこう}で問題^{もんだい}になってますよ
どうにかしてください
ふじお 富士夫 : ラブラブ
なんだ
ひろせ 広瀬

ひろせ 広瀬 : なんだよ、お前^{まえ}
なに 何^{なに}しに来^きたんだよ
ふじお 富士夫 : 話^{はなし}があるんですけど、ちょっとどうか^{おも}かなと思って

の の
飲め、飲めませんけど
ひろ せ
広瀬 : ちょっと、悪いけど、きよ、今日は勘弁してくれ³⁵
かえ
帰れつつってんだよ、ばかやろう

ひろ せ
広瀬 : ばか、なんてことす、ばかやろう

しょう た
章太 : うっせんだよ³⁶

ひろ せ
広瀬 : 何てことすんだ、親に向かって

しょう た
章太 : ざけんじゃねえよ³⁷

ひろ せ
広瀬 : なあにをやってんだ、お前は
ちょっと、おさえてくれ

しょう た
章太 : 離せよ

ひろ せ
広瀬 : 章太、何が気にいらねえんだ³⁸
なに おもしろ
何が面白くねえんだ、言ってみろ

しょう た
章太 : ちっきしょお³⁹

き み こ
喜美子 : ちょっとお、またあ
もう！いい加減にしてよ⁴⁰

しょう た
章太 : いい加減にすんのは、てめえら⁴¹だろう

き み こ
喜美子 : 誰が片付けんのよ
しごと つか かえ
仕事で疲れて帰ってきて

ひろ せ
広瀬 : 酒ばっか飲み歩きやがって⁴²
それでも母親か

き み こ
喜美子 : あんたの方こそ、それでも父親なの
じたくたい き
自宅待機のくせに

ひろ せ
広瀬 : やかましい

き み こ
喜美子 : ああもう

なに
何すんのよ

なに
何よ、あんた

ふ じ お
富士夫 : すみません

ひろ せ
広瀬 : 俺がローンで買った家だ
で い
出て行け

き み こ
喜美子 : 言われなくたって出て行くわよ、こんな家
この能無し⁴³

ひろ せ
広瀬 : ああ、いいよ
そのままにしといてくれ

まいど
毎度のこと⁴⁴なんだ

ゆうこ
優子 : いいわよ、哲男さん、わたし やっとくから⁴⁵、先に食べてて

つねこ
恒子 : 終わった、仕込み⁴⁶

ゆうこ
優子 : うん、終わった
ね、これどうしたんだろう

ふじお
富士夫 : 『しあわせ家族計画』

ゆうこ
優子 : テレビの番組よ

ふじお
富士夫 : 書類選考通過⁴⁷って書いてあるぞ

よし太郎
由太郎 : うそ
やった

ゆうこ
優子 : あんたが出したの
こんな忙しい時に、こんなのんきなことやってられないの、わかってんでし
よう

よし太郎
由太郎 : え、でも、お父さん、暇だよ

ふじお
富士夫 : なに、い 何言ってるんだよ、お父さんが暇なのと、テレビ出る事^{こと}とどういう関係あるんだ
よ

よしぞう
義造 : これ、賞金、出んのか

よし太郎
由太郎 : 賞品^{しょうひん}300万円分^{まんえんばん}

ふじお
富士夫 : 300万^{まん}

よしぞう
義造 : 絶対出ろよ^{ぜったいで}

ゆうこ
優子 : そんな簡単に言わないでよ^{かんたん}
もし通ったとしても、ものすごく難しい宿題^{しゅくだい}が出るのよ^で
しかも、それをやるのはこの人^{ひと}

ふじお
富士夫 : えっ
どういう事、それ^{こと}
冗談じゃないよ^{じょうだん}

ゆうこ
優子 : 合格^{ごうかく}すると思^{おも}う

よしぞう
義造 : ボウズ、あきらめろ

よし太郎
由太郎 : えええ、そんなの、ないよ

つねこ
恒子 : いいじゃないの、どうせね、通りゃしないんだから⁴⁸
テレビ局の見学のつもりで行ってきたらいいじゃない、ね

ふじお
富士夫 : だめです
ぼくは、そういう、テレビとか、そんなのダメですから、絶対ダメです^{ぜったい}

めんせつかん
面接官

: いや、お父さん
自分のご家族に点数を付けるとしたら、何点位ですか

ふ じ お
富士夫

: 90点ぐらい、でしょうか

めんせつかん
面接官

: 10点マイナスの理由は

ふ じ お
富士夫

: 僕が今、失業中、って言いますか

ゆう こ
優子

: いえいえ、主人は、店を継ぐ⁴⁹事になっているんです

ふ じ お
富士夫

: 店を継ぐのはあの職人じゃないのか

ゆう こ
優子

: 誰が言ったの、そんなこと

よしぞう
義造

: 哲だろう、哲だろう、な、そうだ

それが一番なんだよ、だから

よう こ
陽子

: 嫌いだよ、あの人

つね こ
恒子

: あたしもいただけない⁵⁰ね、あの男は

よしぞう
義造

: ばあさん、やめろ

つね こ
恒子

: あいつはね、大体、調子良すぎるのよ⁵¹

よしぞう
義造

: 哲の何があんたに分かるってんだよ

つね こ
恒子

: 日本一の味だなんて

ゆう こ
優子

: よしなさいよ

義造

: 日本一だよ、俺は

うるさいってんだよ

ゆう こ
優子

: 面接会場 でみっともない⁵²でしょう

ねえ

めんせつかん
面接官

: はい

ま、就職活動中という事ですか

ふ じ お
富士夫

: いえ、今、新会社を作る計画が進んでいるんですが

ゆう こ
優子

: 新会社

つね こ
恒子

: その前に、社長さんになんの

ふ じ お
富士夫

: いや、あの、取締役なんですけど

よしぞう
義造

: 重役

いいじゃないか、いいじゃないか

ゆう こ
優子

: よくないわよ、どうしてそんな重大な事かくしてたのよ

ふ じ お
富士夫

: 相談しようにも相談するような雰囲気じゃなかったじゃないか⁵³

ゆう こ
優子

: どこが

よしぞう
義造

: いいじゃないかさ

家へ帰ってから話そう

陽子 : 不登校の問題児は、やっぱり出ちゃまずい⁵⁴ ですね

優子 : 陽子

陽子 : あたし、しばらく学校に行かない事にしたの

優子 : なんですよ

今度はうまくいく⁵⁵ って言ってたじゃない、あんた

陽子 : だめだよ、やっぱり

富士夫 : 広瀬っていう男子生徒の事か

優子 : 誰、広瀬って

富士夫 : 学校の友達から電話があつてな

優子 : お母さん、聞いてないわよ

待ちなさい、どこ行くのよ、あんた

誰、広瀬くんって

由太郎 : あああ、せっかくのオーディション⁵⁶ ぶちこわし⁵⁷ だよ

面接官 : 行っちゃった

品川 : さてと、それじゃ今夜はどこかでパッと⁵⁸ 結団式でも、やりますか

山形 : いいですね部長

あっ、今度は社長でしたね

あっ、お金

富士夫 : あっ、はい

品川 : じゃ、急いで法務局の方へ書類を出してくるよ

今日は、大安だからね

あっ、5時に、セントラルホテルのロビーということで、どうかな

山形 : 分かりました

お気をつけて

山形 : いやあ、しかし、ほっとしましたね⁵⁹

これで、はれて⁶⁰、重役ですね

山形 : 奥さん、喜んでますでしょう

富士夫 : ええ

やっぱり

亭主が無職⁶¹ っていうのは、カッコつかない⁶¹ ですからね

山形 : そうそうそう

わたし もね、嫁はん^{よめ} 62 と子供を抱えて、一時はどうなることかとも思った^{おも} 63 んですが

富士夫^{ふ じ お} : ま、頑張^{がん ば}りましょう、お互^{たが}いに

山形^{やまがた} : 捨^すてる神あればね、拾^{ひろ}う神あり^{かみ} 64

富士夫^{ふ じ お} : 品川^{しながわ}さん

品川^{しながわ} : すまん⁶⁵

最初^{さいしょ}っから、嘘^{うそ}だったんだ、この話^{はなし}は

富士夫^{ふ じ お} : えええっ

品川^{しながわ} : あのね、女房^{にようぼう}が始め^{はじ}たりサイクルショップ⁶⁶が、うまくいなくて⁶⁷、気が^き付いたらもう、夜逃^よげするしか手^てがなくて⁶⁸、その時^{とき}、ふと君^{きみ}たちの顔^{かお}が頭^{あたま}に浮^うかんで⁶⁹ すまん

山形^{やまがた} : 部長^{ぶ ちょう}も部長^{ぶ ちょう}やけど、私^{わたし}らもアホ⁷⁰でしたね

富士夫^{ふ じ お} : でも、大変^{たいへん}だろうな、品川^{しながわ}さん

山形^{やまがた} : ほっときましょうよ⁷¹、あんな

人^{ひと}の心配^{しんぱい}してる余裕^{よ ゆう}なんかないんですから

川尻^{かわじり}さんにも

どないしはりました⁷²

富士夫^{ふ じ お} : 悪い、あの、先^{さき}に帰^{かえ}っててくれる

富士夫^{ふ じ お} : こんなだったのか、俺^{おれ}の人生^{じんせい}

優子^{ゆう こ} : お帰^{かえ}り

富士夫^{ふ じ お} : ただいま

優子^{ゆう こ} : どうだった、新会社^{しんがいしゃ}

富士夫^{ふ じ お} : だめだったんだよ

優子^{ゆう こ} : どういう事^{こと}

富士夫^{ふ じ お} : いやまあ、いい話^{はなし}だと思ったんだけどね、世^よの中^{なか}、そんだけ甘^{あま}くない⁷³って
いうことかな

優子^{ゆう こ} : でしょう

あなたが重^{じゅうやく}役だなんて、話^{はなし}がうますぎる⁷⁴ と思ったわよ

ま、200万損^{まんそん}しなかったくらいに考^{かんが}えれば⁷⁵

富士夫^{ふ じ お} : その、200万^{まん}なんだけど

富士夫^{ふじお} : 落^おとした
優子^{ゆうこ} : えええええええっ